

小中学校情報機器整備事業に係る各種計画

令和 7 年 3 月

福知山市教育委員会

【福知山市】

端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	5,843 人	5,804 人	5,796 人	5,729 人	5,679 人
② 予備機を含む整備上限 台数	0 台	6,674 台	0 台	0 台	0 台
③ 整備台数 (予備機除く)	0 台	5,804 台	0 台	0 台	0 台
④ ③のうち 基金事業によるもの	0 台	5,804 台	0 台	0 台	0 台
⑤ 累積更新率(%)	0.0%	100.0%	99.4%	100.5%	101.5%
⑥ 予備機整備台数	0 台	870 台	0 台	0 台	0 台
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0 台	870 台	0 台	0 台	0 台
⑧ 予備機整備率(%)	0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(端末の整備・更新計画の考え方)

GIGA スクール構想第 1 期の令和 2 年度 3 月に児童生徒 1 人 1 台端末を整備し、ICT を活用した主体的・対話的な学びを推進してきました。端末の整備後 5 年を経過していないものの、経年劣化等による故障や破損が発生していることや端末のサポート期間終了が迫っていることから令和 7 年度に端末の更新を行います。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：6,417 台（学習者用端末：6,139 台、指導者用端末：278 台）

○処分方法

- ・公共施設（図書館、公民館等）や各校の教師用予備機として再利用：278 台
- ・データ消去実施後に有償売却：6,139 台

○端末のデータ消去方法

- ・自治体の職員が行う：6,417 台

○スケジュール

- 令和 8 年 4 月 更新整備端末の運用開始
- 令和 8 年 6 月 旧端末のデータ消去作業実施
- 令和 8 年 8 月 処分事業者への引き渡し

【福知山市】 ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」（文部科学省・令和５年１１月実施）の結果では、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和６年４月）を超える学校数は２校であり、総学校数に占める割合は、２３校中２校で９％となっています。なお、現在の運用において、児童生徒や教員から回線速度に関する不満や意見は寄せられていません。

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（１）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

日常的な調査の結果、通信サービスの契約における帯域及びネットワーク機器に課題があると特定しています。

（２）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

課題である通信サービスの帯域を令和７年度に見直します。また、整備後５年が経過する令和８年度以降に、経年劣化による故障状況や処理能力の低下を踏まえ、ネットワーク機器の更新を検討します。

（３）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

課題である通信サービスの契約における帯域の不足やネットワーク機器の更新について、以下のスケジュールで改善・検討を進めていきます。

○スケジュール

令和７年度	改善措置の実施(通信サービスの契約変更)
令和８年度以降	ネットワーク機器の更新検討

【福知山市】 校務 DX 計画

1 趣旨

福知山市では、GIGA スクール構想に基づき、令和 2 年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本市では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2 福知山市における取組について

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が校務 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項の推進を図ります。

（1）デジタル化の推進・定期的な研修の実施

教職員の業務効率を向上させるため、校務のデジタル化を進めていきます。教職員向けの ICT 研修会を定期的の実施するなど、デジタルスキル及び情報リテラシーの向上を目指します。

（2）不必要な手入力作業の一掃

本市では成績処理のほか、サービス管理・保健機能・学籍等の機能を備えた統合型校務支援システムを導入し、学齢簿システムと連携することで名簿情報の不必要な手入力作業の一掃を進めています。引き続き個人情報ファイルの取り扱いに留意しながら、業務の効率化に取り組めます。

（3）GIGA 環境・汎用クラウドツールの一層の活用

児童生徒のみならず教職員においても、1 人 1 台の端末を整備することでクラウドサービスの利用を推進します。また、児童生徒とのコミュニケーションや教職員間のコミュニケーション手段の強化を図り、円滑な学級経営・校務処理を目指します。

（4）保護者とのやり取り・児童生徒の出欠連絡デジタル化

保護者連絡ツール等のクラウドサービスを活用しているものの、学校によって複数のプラットフォームが混在しているため、プラットフォームの統一を検討していきます。また、電話連絡で対応可能であるなどの理由から、出欠連絡でツールを運用していない学校があります。学校の対応時間外であっても保護者からの情報送信

が可能であり、教職員が空いた時間に確認・折り返し連絡ができるメリットなどを踏まえ、全校におけるツール運用を検討します。

(5) 校務におけるペーパーレス化

一人一台端末を活用した会議等の開催や閲覧資料の電子化により、業務負担軽減及び経費削減に取り組んでいます。また、業務効率の向上を図るため、FAX でのやり取りや不必要な押印など業務の点検・見直しを行います。なお、FAX でのやり取りについては、関係機関との調整や緊急連絡、教育系ネットワークの不具合発生時など、FAX の方がより効率的な場合を除き原則として廃止を目指します。

(6) 次世代の校務支援システム導入検討・ゼロトラストセキュリティへの移行

校務支援システムの更新においては、より効率的に業務を行えるよう学校現場における課題・ニーズの情報共有を図るほか、汎用クラウドツールとの連携も検討しながら引き続き整備を進めます。校務系・学習系ネットワークの統合については、ゼロトラストセキュリティの考えに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じることを前提とした上で検討を進めていきます。

【福知山市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

福知山市では「福知山市立学校教育内容充実推進プラン」(『響』プラン・F)を策定しており、知性を磨き、特性を高め、健全で自立した人格を育み、併せて人々の幸福と社会の発展に寄与する行動力を兼ね備えた、新しい時代を切り拓く人材を育成することを目指しています。この目標の実現に向けて、学校や生徒の実情を踏まえた上で、ICTを活用した新たな教材やアプリ、学習活動を積極的に導入し、児童生徒の資質・能力の育成を推進していきます。

2 GIGA 第 1 期の総括

(1) 経緯と現状

福知山市では、GIGA スクール構想に基づき、令和 2 年度に小・中学校の児童生徒に 1 人 1 台端末を整備しました。この 5 年間で学習用端末を接続するための ICT 環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。

(2) ICT 施策の実施内容及び課題

更なる端末活用を見据え、令和 3 年度にインターネットの接続方式をセンター集約方式からクラウド型データセンター接続方式に変更し、高速大容量ネットワークを整備することで安定性と速度を向上しました。併せて市内全小中学校に電子黒板機能付き大型提示装置及び画面転送機能付きアクセスポイントを整備することで、授業の質の向上に努めました。整備した ICT 環境を活用し、児童生徒が情報収集、共同編集、意見共有、ICT 端末を用いた発表など様々な学習活動を行っています。

ICT の活用頻度については、令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、本市の ICT 機器の使用頻度は全国および都道府県平均を上回る結果となっており、引き続き ICT 活用能力の維持・向上が求められます。しかしながら、学校間及び教職員間の ICT スキルには依然として差があり、授業や校務における ICT の活用頻度にも差があることが課題として挙げられます。

3 1 人 1 台端末の利活用方策

福知山市では、GIGA スクール構想第 2 期において、端末を更新し児童生徒 1 人 1 台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。また、第 1 期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるための具体的な対策と改善策を検討していきます。

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用

GIGA スクール構想第 1 期において整備した ICT 機器を効果的かつ効率的に活用し、学校における教職員や児童生徒の学習活動をサポートするため、現在、市内全校に 2 週間に 1 回 ICT 支援員による訪問支援を実施しています。各種支援や授業実践事

例等の蓄積・情報共有を継続して行うことで 1 人 1 台端末の利活用機会を促進し、更なる活用の推進を図ります。また、不登校による学習機会の喪失や学習時に支援を必要とする等の多様な児童生徒の学びを保障するため、オンラインでの授業参加を希望する児童生徒への対応環境を整えています。また、外国籍の児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒に対しても、翻訳ツールの活用やデジタイズ教科書、読み上げツールなどの端末を活用した支援を実施しています。また、現在導入している「心の可視化ツールアプリ」では、学校生活での変化を読み取ることができ、不登校を未然に防ぐ効果が期待されているほか、教育相談にも活用が期待されています。引き続き 1 人 1 台端末の日常的な利活用を推進するとともに、多様な児童生徒に対する支援として、様々な場面での活用を継続して推進します。

（２）個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒の多様な特性や習熟度に対応し、一人ひとりに最適な学びを提供するとともに、社会で必要とされる協働力を育むために ICT を活用した効果的な協働学習の充実が必要であることから、AI 型のデジタルドリルを引き続き活用し、児童生徒が自分のペースや難易度で学習できる 1 人 1 台端末を利用した個別最適な学びの環境を維持することで学習意欲を高めます。また、教師は児童生徒一人ひとりの学習傾向や取組状況をよりの確に把握し、適切な指導やより良い授業づくりをめざします。加えて、授業支援アプリを活用し児童生徒同士が共同で作成・編集活動や、多様な意見を共有しながら合意形成を図る活動などを通じて、学習者主体の「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させ、主体的・対話的で深い学びを継続します。